

「釧路湿原自然再生協議会」

# 第 21 回 旧 川 復 元 小 委 員 会

資 料

平成 30 年 2 月 14 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

# 釧路湿原自然再生協議会

## － 第 21 回旧川復元小委員会 －

日時：平成 30 年 2 月 14 日（水） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第 1 会議室

### ----- 議 事 次 第 -----

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

- 1) 茅沼地区旧川復元事業の評価について
- 2) 地域と連携した旧川復元事業の取り組みについて
- 3) ヌマオロ地区旧川復元実施計画について

#### 3. 閉 会

### ----- 配 布 資 料 -----

- ・ 第 21 回旧川復元小委員会 資料 ----- (資料 1)
- ・ 出席者名簿 ----- (資料 2)
- ・ 座席表 ----- (資料 3)
- ・ 第 21 回旧川復元小委員会 説明資料 ----- (資料 4)
- ・ 第 20 回旧川復元小委員会ニュースレター

釧路湿原自然再生協議会  
旧川復元小委員会 委員名簿

計：48名

■個人(21名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	石岡 透	
2	伊藤 毅	上智大学 国際教養学科 准教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
4	神田 房行	北方環境研究所所長(元北海道教育大学副学長)
5	櫻井 一隆	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウエットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)
9	杉澤 拓男	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路 理事
10	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
11	竹中 康進	
12	照井 滋晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワークPEG 代表
13	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
14	野本 和宏	釧路市立博物館
15	早川 博	北見工業大学 工学部社会環境工学科 教授
16	針生 勤	一般財団法人釧路市民文化振興財団 生涯学習推進アドバイザー
17	日野 貴	
18	平間 清	(有)平間ファーム
19	松本 文雄	
20	矢吹 哲夫	酪農学園大学 農食環境学群・環境共生学類 教授
21	渡辺 剛弘	上智大学 国際教養学科 准教授

■団体(19名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路国際ウエットランドセンター	理事長 蝦名 大也
3	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
5	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山岸 彬
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
7	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
8	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
9	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
10	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
11	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
12	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷲見 祐将
13	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
14	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長 佐藤 吉人
15	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
16	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 矢部 浩規
17	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 新目 竜一
18	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
19	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

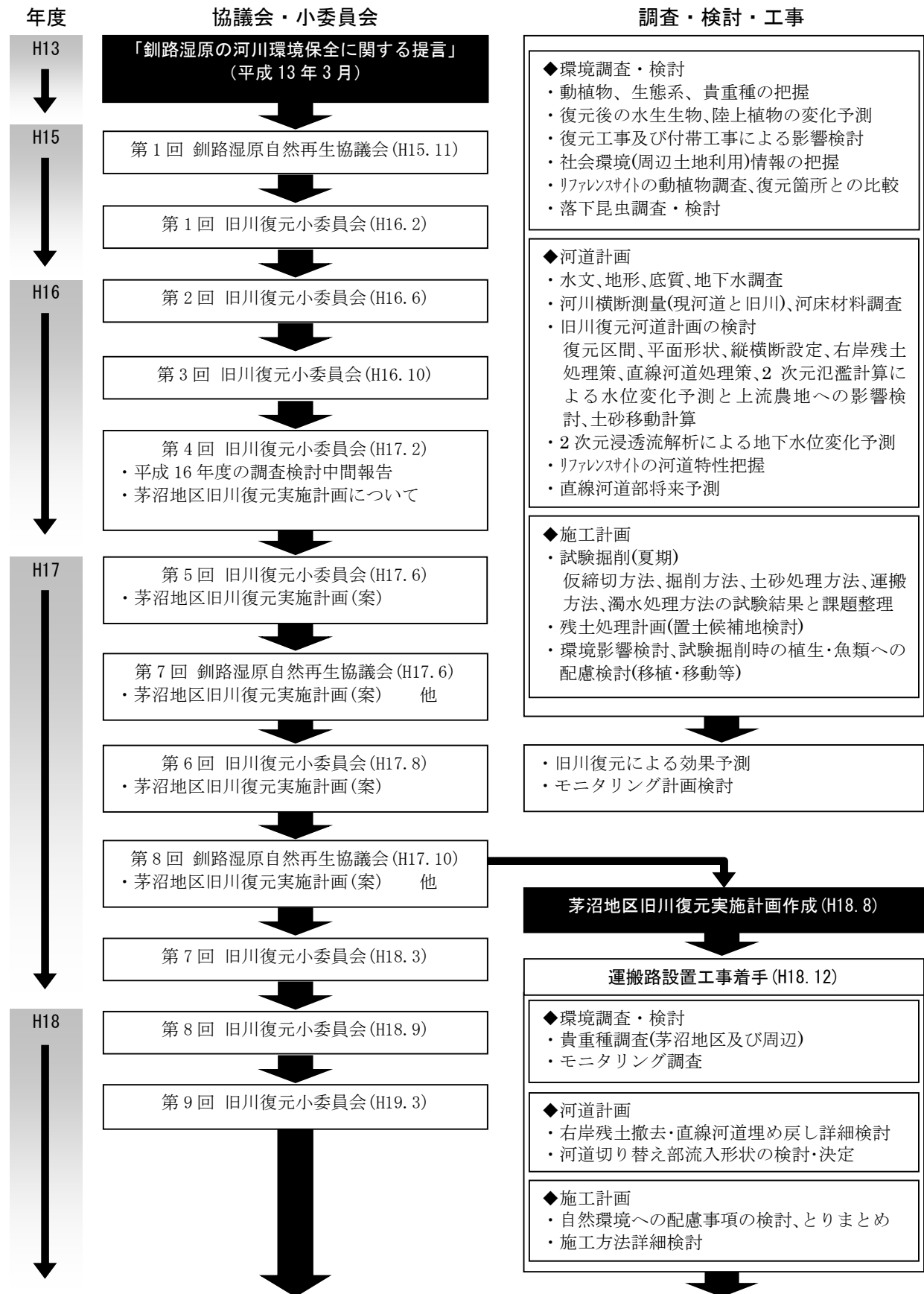
No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆

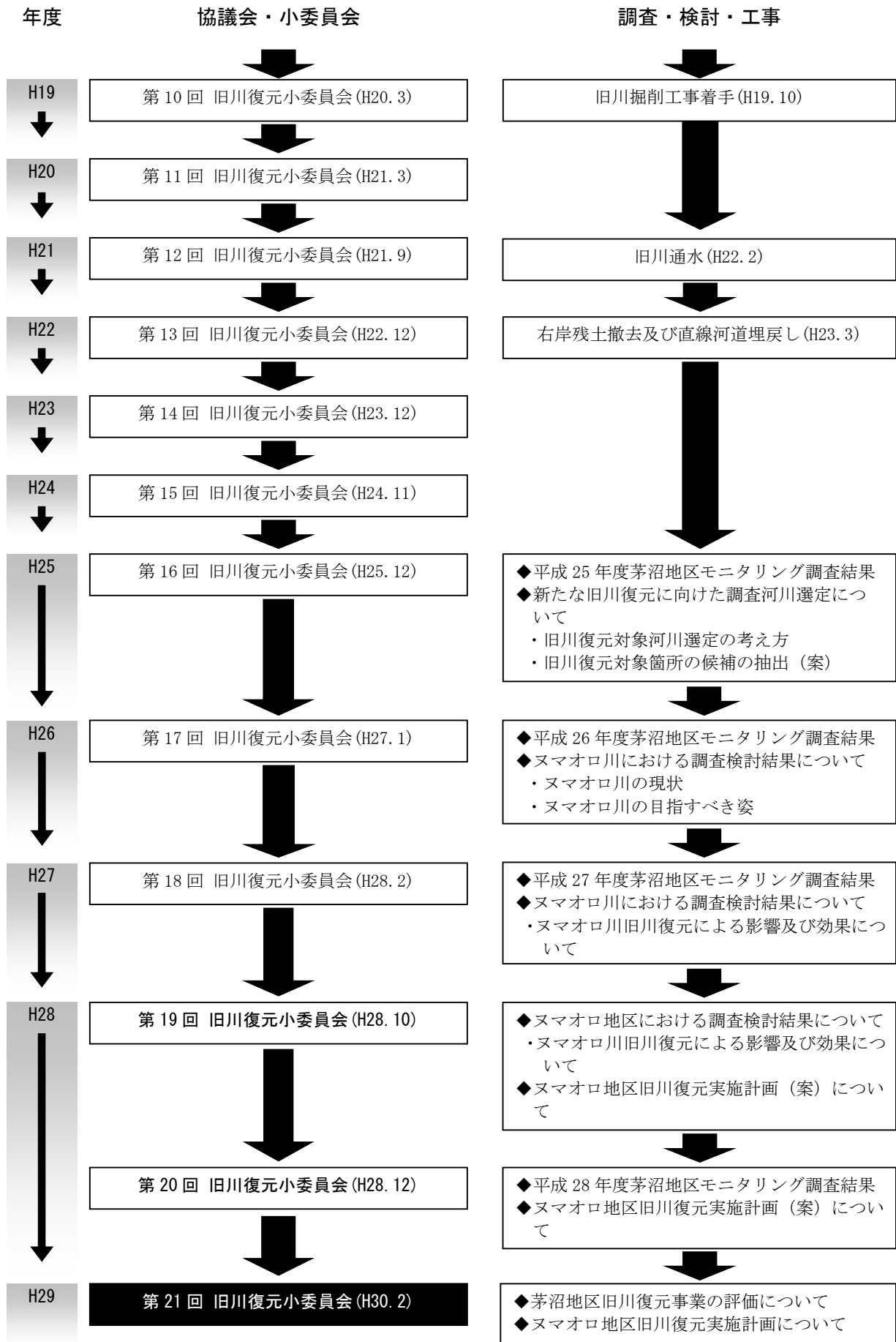
■関係行政機関(5機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 桑島 隆一
2	環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 安田 直人
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	標茶町	町長 池田 裕二
5	鶴居村	村長 大石 正行

— 旧川復元計画に関するこれまでの経緯 —





◇前回の旧川復元小委員会での課題と今後の対応方針

第 20 回 旧川復元小委員会の課題（発言概要）と今後の対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針
茅沼地区モニタリング調査結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧川復元箇所の土砂トラップ効果が大きく、この事業の成果が表れている。今後もモニタリングを継続して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング調査により効果を評価しながら、必要なモニタリング調査を継続していく。</li> </ul>
ヌマオロ地区旧川復元実施計画（案）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生変化のモニタリングについて、短期変化としては単位面積あたりのハンノキ林の枯存木の調査を行い、長期変化としては、方形区でのヨシ群落が占める面積の変化を確認していくと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング調査について、頂いたご意見を参考に検討していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧川復元区間の上流は、事業実施によって河床が低下することは無いのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧川復元により、直線化当時の元の状態まで河床が低下することは考えられるが、それ以上低下する可能性は低いと考えている。実施後のモニタリング調査で確認していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧川復元により、旧川復元区間上流の直線区間から堆積している土砂が流れ、旧川復元区間に堆積するのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>氾濫時には地盤が低い旧川復元区間の右岸側に氾濫するため、復元河道への堆積は進まないと考えられる。</li> </ul>